

《キーワード》 歯科麻酔学、麻酔科学、ペインクリニック

《担当者名》 照光 真

【概要】

全身状態に問題のある症例に対して歯科治療のみならず、全身管理や偶発症に対応できることや、医師やその他の医療チームとも横の連携がとれる歯科医師が求められている。歯科麻酔での臨床研修や専門教育は、歯科麻酔を専門に志す意外にも、広く歯科医師に有用なものであることを意味している。歯科医療の安心、安全を支えるために歯科麻酔の視点や思考法、手技を学修し、歯科麻酔学会の認証を得るための基盤を作る。これは鎮静法や全身麻酔の周術期管理、有病者の治療でのモニタリング、一次・二次救急救命処置のトレーニングやペインクリニックでの実践を通して身につけてゆく。

【学修目標】

1. 患者の全身状態を評価し、適切な診療計画をたてることができる。
2. 歯科診療に影響を及ぼす可能性のある全身合併症について説明し、必要があれば対診を行うことができる。
3. インフォームドコンセントを適切に実践できる。
4. 静脈内鎮静法について適切に実践できる。
5. 全身麻酔法について適切に実践できる。
6. 大手術後の人工呼吸管理を行い、人工呼吸器離脱まで管理できる。
7. 患者にペインクリニック診療の情報を与える事ができる。
8. 国際的なガイドラインに基づく心肺蘇生法を説明し、指導することができる。
9. 麻酔科領域の臨床研究を行い、そのプレゼンテーションができる能力を養成する。
10. 日本歯科麻酔学会認定医の資格を取得するための症例数を蓄積する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	担当患者の術前全身状態の評価及びインフォームドコンセントの実践		照光 真
2	担当患者への静脈内鎮静法の実践		照光 真
3	担当患者への全身麻酔管理の施行及び術後管理の実践		照光 真
4	担当患者へのペインクリニック診療の補助・見学		照光 真
5	症例検討会の開催		照光 真
6	原著論文の抄読		照光 真
7	学会発表及び論文作成		照光 真
8	学生及び職員に対する心肺蘇生法講習会の開催		照光 真

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況、提出物、臨床症例

【参考書】

歯科麻酔学 第8版

【備考】

登録医は概ね1年、認定医には規定の症例数と試験を必要とし、さらに専門医取得には必要症例数、論文掲載等のほか、学会在籍5年間が必要である。

【学修の準備】

麻酔・麻酔薬に関する一般的な知識（中枢、呼吸、循環への影響等）について学習しておくこと。実際の症例を管理する際には、症例の問題点について指導医と入念に協議することが必要である。成書又は文献検索を行い、十分に準備を行うようにして

ほしい。

【実務経験】

歯科麻酔を専門とする歯科医師：照光 真、吉本 裕代、大桶 華子、藤田 正尚

【実務経験を活かした教育内容】

歯科麻酔の周術期管理とペインクリニックを通じた指導。